

アメリカ合衆国は信仰の基盤？

アメリカの経済破綻は協会本部の業を難しくさせているにちがいない、さぞかしご苦勞も多いだろうと考えている人も少なくないかも知れません。

私が察するに、とてもそれどころではない。今や、宣教どころか戦々恐々としているだろうと推察されます。なぜなら、アメリカを世界強国にしているのはその軍事力であり、それを支えているのは経済力だからです。そしてその経済が破綻したら・・・もし、アメリカがこのまま立ち直れず、世界のTOPから落ちてしまったとしたら・・・アメリカが第7[世界強国]でなくなったら、どういうことになるのでしょうか。

その次に台頭してくる国は第8世界強国になるのでしょうか。いいえ、実権を持つ人間製の世界強国は全部で7つと決まっていますので、少なくともアメリカは聖書の言う「第7世界強国」ではなかった。それは勘違いだったということが明らかになると言うことです。この王国は「大仰な事を語っている」まさにその最強の時に、キリストの王国によって滅ぼされることになっているからです。

七人の王がいる。五人はすでに倒れ、一人は今おり、他の一人はまだ到来していない。
しかし到来したなら、少しの間とどまらなければならない。(啓示 17:10)

では、アメリカが、いわゆる英米が第7世界強国ではなかったということになると、どういう事になるのでしょうか。

ローマの次に出るべきものがまだ到来していないとなると、「海から上がる野獣の7番目の頭」も「3本を引き抜いて出てくる小さな角」も「地から上がる子羊のような角のある野獣」も「野獣の像」も「緋色の野獣」も、終末期の「南の王」も、これらすべてはまだ存在していないことになるということです。

それはつまり、終末預言(終わりの日に関する預言)は全てこれらの野獣に関わっているものなので、もし第7世界強国が英米ではなかったことになると、これまで協会が出版し、説明してきた、終末預言に関する理解のほとんどは、すべて勘違いだったということになってしまうのです。

つまり、これまで私たちが、学び、信仰を働かせて来た教理や希望は、100%聖書に依存するものだと思っておりましたが、実際は、その相当の部分はアメリカ合衆国の存続に依存しているのです。この体制が終わる前にアメリカが世界のTOPでなくなることは想定外であり、筋書きにはないのです。

上に述べた「終末預言に関する理解」に何が含まれるかということ、未だ成就していないものと言え、**「大いなるバビロン」が完全に滅びることとハルマゲドンくらいで、それ以外はほとんど全部とつくに成就した、あるいは現在進行中ということになっているわけですが、この理解を全部白紙に戻さなければならないわけですから、これはとんでもないことになってしまいます。**

つまり「キリストの臨在」「忠実で思慮深い奴隷」の選別、「小麦が集められること」つまり真のクリスチャンの集合体などなど、これら全てに関して、初めから全てを書き直さなければならないことを意味しているのです。

私たちの信仰とクリスチャン生活の実質的な大部分は、アメリカが世界のTOPであり続けることにまったく依存しているのです。

しかし、世界情勢に詳しい多方面からの専門家の観察は異口同音にアメリカの没落はほど近いと言うのが実情です。「終わりは近い」というスローガンが「世」ではなく私たちの「信仰生活」に当てはまってしまふ事態に直面したらあなたはどうするのでしょうか

(「戦々恐々」意味: おそれおののく様子。おそれてびくびくする様子)